

「スポGOMI」は、ゴミ拾いとスポーツがドッキングしたイベントです。チーム対抗で、制限時間内に集めたゴミの質と量をポイント化し、競い合います。2008年に都内でスタートし、毎週末、全国アチコチで開催されています。

札幌大会は、2011年から毎年開催し、今年で9回目となります。スタート当初は、資源リサイクル事業を営む北海紙管株式会社のCSR活動の一環としてスタートしました。札幌で営業活動している、地域のためになにかできないか、しかも、業務内容そのものが環境と深くかかわっている我々にはできないユニークな活動を、ということでもスポGOMIを知り、スタートしたわけです。大会を重ねるに連れ、規模も大きくなったため、2015年にNPOを立ち上げ、大会の企画運営を行うようになりました。

「スポGOMI」はスポーツだけに、通常のゴミ拾いとは異なる点があります。まず、ルールが存在すること。5人以下のチームで、1時間の競技時間の中で、決められたエリア内で活動することとなります。走ったり、チームがバラバラになったりするのは反則となっています。ルールは、公平に、とともに、安全に運営されるように、という視点からも作られています。さらに、各チームには審判が同行することで、よりそれらが強化されるようになっていきます。また、開閉会式はもちろん、表彰式もあり、ポイントに応じて順位が決まり、上位チームが表彰

まちむら発見①

ゴミを捨てない生活者を増やしていく

北海道札幌市清田区 特定非営利活動法人北海道スポーツGOMI拾い連盟



されるのもこの大会の特徴です。他にも、開会式では作戦タイムがあったり、選手宣誓があったりと、スポーツのエッセンスが散りばめられています。

昨年の第8回大会は、札幌市西区で開催されましたが、このときは48チームがエントリーし、審判も含めて259人が競技に参加しました。その結果、206・6キログラムのゴミが集まりました。1時間で集めるには相当の量で、これはスポーツというフィルターを通すことで、ゴミ拾いに競争原理が働いているためかと思えます。まさに、宝物を探すようにゴミを探している姿を見ると、「本当に、これがゴミ拾いか?」と不思議な感じさえします。

過去8回の大会で、審判も含めて2511名が参加。集めたゴミの量は2939・1キログラムとなっています。

ところで、スポGOMIを開催し続けて気付いたのが、ゴミを拾うことで、ゴミを捨てなくなるので

はないか、ということ。ある大会が終わった後も、競技が終わっているにもかかわらず、ゴミを拾い続けながら帰る子どもたちを見かけました。いつときだけかもしれないませんが、競技を通じて、ゴミを拾うことが自然な行為として身についたのであれば嬉しいな、と思いました。また同時に、きつと、こういう子どもたちは、捨てることもしなくなるのだろうな、とも思いました。

それ以降の大会では、特に、子どもたちの参加比率アップを意識しています。ゴミを捨てない大人を一人でも世の中に多く送り出していきたい、という思いが強くなっています。昨年度（2018年度）は、その手段として、スポGOMIの説明リーフレットをマンガで作成し、近隣の小学校に配布いたしました。今後も、総参加者数アップを図っていく中で、特に子どもたちの参加者比率には、強く関心を持っていきたいと思っています。

また、「ゴミを拾うことで街を知る」というのもスポGOMIのテーマの一つです。ゴミを拾う参加者がいて、拾ってもらおう街の住民がいる、それを結び付けられないか、ということ。で、第3回大会からは、各地の商店



街とタイアップして一緒に大会を企画運営しています。過去の大会においても、ランチイベントを企画したり、チェックポイントルールを設け、街の名所でのチェックインを義務づけたりと、お世話になった地域に対し恩返しできないかと企画、実行してきました。

大会は2年毎に開催区を変えています。各地にスポGOMIという種を撒いていきたい、という思いとともに、各地の商店街を元気にしたい、という思いもあります。

今後の活動としては、自ら企画運営をするともに、志の高い他団体での企画運営のサポートも行っています。していきたいと思っています。そして、現在の札幌中心の活動を、道内の各地に広げていけたら、と思っています。そして、ゆくゆくは、スポGOMI甲子園と称し、全道の優勝チームを集めて、道内一を札幌大会で決めたいな、と夢を描いています。

スポGOMIの主役は、選手、審判と参加者はもちろんですが、一方で、「ゴミ」も影の主役です。なぜなら、ゴミがないと、競技が成り立たないからです。そういった意味では、スポGOMIはゴミがあることが前提となっております。

「スポGOMIがなくなる世の中を作る」。不思議な感じがしますが、一日でも早くスポGOMIが成立しなくなるために、スポGOMIを続け、広げていく。それが私たちのミッションだと思っています。

（団体理事長 小西和孝）